論　文　内　容　要　旨

# Histopathological analysis of the differential diagnosis of peripheral odontogenic fibroma from fibrous epulis

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔科学講座　　眞部　慶

（指　導：槻木　恵一　教授）

# 論　文　内　容　要　旨

周辺性歯原性線維腫（POF）は、歯肉に発生する比較的まれな歯原性腫瘍である。肉眼的に表面平滑な隆起性病変でありエプーリスと臨床診断されることが多い。また、病理組織学的には、線維性エプーリス（FE）との鑑別診断が重要である。しかし、鑑別が困難なことが多いことから免疫組織化学的マーカーの検討が必要とされてきたが、これまで報告がなかった。

そこで、線維増殖性病変の鑑別診断に使用される腫瘍マーカーを使用して、POF と FE の発現を比較し、免疫組織化学的マーカーを探索することを目的とした。

症例は POF20 症例と FE20 症例の合計 40 症例を用いた。本研究は、神奈川歯科大学研究倫理審査委員会の承認（340,596 番）を得て実施された。腫瘍マーカーとして、CD34、Bcl-2 および Ki-67 の検出を目的として、パラフィンブロックからの薄切標本で染色可能な一次抗体を用いて免疫組織化学的染色を行った。各症例において陽性細胞を 1000 個以上計測し、陽性細胞率を算出し、Mann-Whitney U 検定を行った。有意差は $P$ 値が 0.05 以下とした。

POF は CD34 の発現を示さなかった。全ての症例で Bcl-2 および Ki-67 の発現が観察された。 FE は、CD34 の発現を示さなかった。全ての症例で Bcl-2 および Ki-67 の発現が観察された。 Bcl-2 または Ki-67 陽性細胞率には、有意差が認められ有意に POF の発現率が高かった（$P<0.05$）。

POF は CD34 陰性、Bcl-2 は高陽性率であり、FE とは発現プロファイルが異なり、これらのマーカーが鑑別診断の免疫組織化学的マーカーとして有用であることが示唆された。